

### 2025年問題における 本市の医療と介護施策を問う



自由民主クラブ 小俣 美恵子 議員

**議員** 2025年には団塊の世代が75歳以上となり、高齢者とその家族の医療・介護に関する費用負担の増加が想定される。現状把握と取り組みについて伺う。

**市長** 平成28年度に高齢者の生活と福祉実態調査を実施した。今後、結果を踏まえて高齢者施策の策定、推進に取り組んでいきたい。

**議員** いまや最大の課題は、医療・介護を担う人材不足だ。市は、現状をどのように把握しているのか。

**市長** 介護事業者からも新たな人材の確保が難しいと聞いている。今後も国や都府県に対し人材確保に向けた施策の充実を要望していく。

**議員** 国は、自宅や地域で治す地域完結型医療への政策転換を進めており、更なる医療・介護の連携と在宅医療の充実が必要だ。本市の取り組みについて伺う。

### 子どもたちの安全を守るため 地域・保護者・行政の連携を



自由民主クラブ 渥美 典尚 議員

**議員** 子どもが連れ去られる事件が後を絶たない。知らない人について行かないよう教えるだけでなく、ついて行ってもよい人、車に乗ってもよい人を決めておく教育が必要ではないか。

**教員長** 地域の実態に沿った子どもの見守り体制を検討するとともに、子ども自身に危険を察知して、回避する力を育てていきたい。

る。啓発活動について伺う。  
**教育部長** 自転車用ヘルメットの着用は13歳未満の児童の保護者に対する努力義務である。学校だよりや保護者会等の様々な機会を通じて、協力を呼びかけている。

**議員** 子どもが自動車に乗る際に、法令化されている子ども用シート使用の重要性と遵守を保護者に啓発すべきと考える。所見を伺う。

**市長** 交通安全講習会等のイベントでは、シートの正しい着用方法を記載した交通安全チラシを配布するなど、周知に取り組んでいる。

**議員** 子どもたちが川や海で水遊びをする際には、ライフジャケットを使用する

### ICTを活用した効率的な 行政サービスの展開を



自由民主クラブ 後藤 貴光 議員

**議員** ICT・インターネットは、活用次第で行政サービスが効果的・効率的に展開される可能性があるが、セキュリティ対策は欠かせない。職員向け研修はどのように行っているか。

**市長** 新人職員等に研修を実施し、全職員に情報セキュリティハンドブックを配布している。また、標的型攻撃メール訓練を不特定の職員に実施し、人的安全管理の向上を図っている。

**議員** 本市のホームページ等に古い情報が掲載されていることがある。職員の業務量が増し、直し切れていないのではないかと懸念している。業務効率化で、限られた時間の中でも複数チェックができる取り組みが必要だ。

を増やしてはどうか。転居した人に送ることににより、本市とのつながりを持ち続けるジュニアリーダー講習会等で野外活動を実施する場合は、ライフジャケット等を着用した安全確保の重要性を体験させ、指導を行うことを実践していきたい。

### 生涯学習の充実と 多世代交流の促進を



自由民主クラブ 吉野 和之 議員

**議員** 少子・長寿社会において生涯学習の一層の充実が必要だ。平成29年4月より生涯学習課の業務が教育委員会から市長部局に移管された。移管の意義を伺う。

**市長** 生涯にわたる学習機会を保障し、市長部局が責任をとることを明らかにした。全庁横断的に事業が展開され、学びと活動の循環が促進されると考える。

**議員** 生涯学習と多世代交流とは同時に推進していくべきものと考えられる。多世代にわたる多様な市民の主体的な学習を保障するため、どのような関連づけて政策を展開するのか。

**市長** 生涯学習は、年齢にとらわれることなく推進されるべきものであり、世代間交流が生まれるような、学ぶ機会を保障したい。

### 新たな発想で 強固な財政基盤の構築を



自由民主クラブ 石井 良司 議員

**議員** 本格的な少子・高齢、人口減少社会に突入し、社会保障関連経費の負担が経済の伸びを上回っている。

今後社会保障制度に大きな変化が見込まれ、より厳しい行財政改革と強固な財政基盤の構築が必要だ。財政運営の考え方を問う。

**市長** 生産年齢人口の割合が低下し、今までのような市税収入は見込めない。市債と基金のバランスよい活用、行政サービスの質と量の最適化等により、持続可能な自治体経営を進める。

**議員** 人間の生存に直結する経費を含む民生費は、平成29年度三鷹市予算額の51・9%を占め、前年と比べ約20億円増加している。市民サービスの質的低下を

もたらさないよう、財源の確保が重要だ。民生費の増加に対する考え方を問う。

**議員** 不利益の発想という考えがある。不便な中で生活することで、多様な発想につながる。より良い政策が生まれる。財政を投入するだけでなく、その発想を取り入れてはどうか。



売却予定の旧社会教育会館敷地

### 子どもの健康診断を充実し 安心できる子育て環境整備を



公明党 赤松 大一 議員

**議員** 産院等での新生児聴覚検査時に、検査結果の一方的な告知等で、絶望的な気持ちになる親もいる。再検査になった際の相談や精密検査・療育等の情報提供ができる体制が必要だ。

**市長** 専門医や小児難聴専門の言語聴覚士のいる医療機関を紹介し、フォローが継続するようにしている。